



2019年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年5月14日

上場会社名 川田テクノロジー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3443 URL <http://www.kawada.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川田 忠裕
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 渡邊 敏 TEL 03 (3915) 7722
 定時株主総会開催予定日 2019年6月27日 配当支払開始予定日 2019年6月28日
 有価証券報告書提出予定日 2019年6月28日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2019年3月期の連結業績（2018年4月1日～2019年3月31日）

（1）連結経営成績

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期	118,369	10.4	6,065	36.7	8,541	86.2	6,063	48.9
2018年3月期	107,250	3.7	4,436	△24.9	4,586	△47.3	4,070	△50.0

（注）包括利益 2019年3月期 6,556百万円（26.1%） 2018年3月期 5,201百万円（△34.4%）

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2019年3月期	1,041.23	1,037.92	11.8	6.8	5.1
2018年3月期	702.71	698.59	8.9	3.9	4.1

（参考）持分法投資損益 2019年3月期 2,793百万円 2018年3月期 570百万円

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期	128,062	55,245	42.6	9,309.19
2018年3月期	123,583	48,761	38.9	8,304.26

（参考）自己資本 2019年3月期 54,526百万円 2018年3月期 48,122百万円

（注）「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、2018年3月期に係る総資産及び自己資本比率については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しています。

（3）連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2019年3月期	13,031	△3,811	△9,847	10,629
2018年3月期	3,328	△3,232	2,774	11,240

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2018年3月期	—	—	—	60.00	60.00	351	8.5	0.8
2019年3月期	—	—	—	100.00	100.00	590	9.6	1.1
2020年3月期(予想)	—	—	—	80.00	80.00		10.9	

（注）2019年3月期 期末配当金の内訳 普通配当80円 記念配当20円

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	120,000	1.4	4,800	△20.9	5,800	△32.1	4,300	△29.1	734.14

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
 ② ①以外の会計方針の変更：無
 ③ 会計上の見積りの変更：無
 ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数

2019年3月期	5,909,170株	2018年3月期	5,859,570株
2019年3月期	51,941株	2018年3月期	64,664株
2019年3月期	5,822,972株	2018年3月期	5,792,832株

(参考) 個別業績の概要

1. 2019年3月期の個別業績（2018年4月1日～2019年3月31日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期	1,860	△61.7	858	△78.1	839	△78.4	1,004	△75.0
2018年3月期	4,858	212.5	3,919	399.4	3,889	428.4	4,024	397.3

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期	171.06	170.52
2018年3月期	687.97	683.98

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期	25,022	23,616	94.4	3,998.75
2018年3月期	23,886	22,714	95.1	3,881.11

(参考) 自己資本 2019年3月期 23,613百万円 2018年3月期 22,710百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、2018年3月期に係る総資産及び自己資本比率については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しています。

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。
- ・当社は機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	3
2. 企業集団の状況	4
3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
4. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	14
(会計方針の変更)	17
(表示方法の変更)	17
(連結貸借対照表関係)	18
(連結損益計算書関係)	20
(連結包括利益計算書関係)	22
(連結株主資本等変動計算書関係)	23
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	25
(セグメント情報)	25
(1株当たり情報)	28
(重要な後発事象)	28
5. その他	29
(1) 役員の変動	29
(2) 受注、販売及び繰越高の状況	29

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当社グループの当連結会計年度における業績は、売上高118,369百万円（前連結会計年度比10.4%増）、営業利益6,065百万円（同36.7%増）、経常利益8,541百万円（同86.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は6,063百万円（同48.9%増）となりました。受注高につきましては、土木セグメントで前連結会計年度を大幅に上回ったことで、全体では141,585百万円（同15.9%増）と過去最高を記録し、その結果、次期繰越高も過去最高水準となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。（セグメントの業績については、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しています。）

（鉄構セグメント）

鉄構セグメントにおきましては、売上高は、鉄骨事業において東京オリンピック・パラリンピック開催前の再開発関連工事の製作が最盛期を越えたことにより前連結会計年度に比べ減少したものの、橋梁事業において前連結会計年度からの豊富な繰越高を受け、高速道路会社をはじめとした大型新設鋼製橋梁や大規模更新工事が順調に進捗したことにより、53,044百万円（前連結会計年度比0.5%増）となりました。損益面は、橋梁事業において大型工事の竣工時設計変更が獲得できたことによる採算性の改善に加え、鉄骨事業においても採算性の良い工事の進捗が順調に推移したことや原価低減が図れたことにより、営業利益は4,567百万円（同21.1%増）となり、大幅に改善いたしました。受注高は、橋梁事業において当連結会計年度の上半期で高速道路会社や国土交通省を中心とした大型工事の受注を積み重ねることができましたが通期では過去最高だった前連結会計年度を下回ったことに加え、鉄骨事業において当第4四半期で首都圏を中心とした大型再開発工事の受注を積み重ねることができましたが当第3四半期までの伸び悩みを補うまでには至らなかったことで、鉄構セグメント全体の受注高は54,719百万円（同12.6%減）となりました。しかしながら、当連結会計年度における次期繰越高は前連結会計年度を上回る高い水準を維持しています。

（土木セグメント）

土木セグメントにおきましては、売上高は、高速道路会社をはじめとした大型新設PC橋梁のほか、大型床版取替工事が順調に進捗したことにより、33,385百万円（前連結会計年度比6.8%増）となりました。損益面は、当第4四半期に大型工事での設計変更が獲得でき、損益改善が図れたものの、施工工法変更に伴う工期の延長で原価が先行している形の工事等もあり、営業利益は1,789百万円（同4.4%減）となりました。受注高は、新設のみならず補修、保全についても大型工事での受注を積み重ねることができたことにより51,234百万円（同76.3%増）となり、前連結会計年度を大幅に上回ることができました。

（建築セグメント）

建築セグメントにおきましては、売上高は、前連結会計年度に受注したシステム建築をはじめとした大型工事が概ね順調に進捗したことにより、21,489百万円（前連結会計年度比67.6%増）となり、大幅に増加いたしました。損益面は、売上ボリューム増加に伴い利益が増加したことに加え、竣工を迎えた一般建築での採算性が改善したことにより、営業利益は1,555百万円（同88.4%増）となり、大幅に改善いたしました。受注高は、システム建築をはじめとした大型工事の受注を積み重ねることができたことにより、22,811百万円（同25.1%増）となりました。

（その他）

その他におきましては、売上高は12,401百万円（前連結会計年度比1.3%減）、損益面につきましては、ソフトウェア関連の売上増加で利益が増加したことなどにより、営業利益414百万円（前連結会計年度は営業損失26百万円）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末における「資産の部」は128,062百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,479百万円（前連結会計年度比+3.6%）増加しました。これは主に、建物・構築物が784百万円、建設仮勘定が1,274百万円、関係会社株式が2,666百万円それぞれ増加したことによるものであります。

また、「負債の部」は72,817百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,004百万円（前連結会計年度比△2.7%）減少しました。これは主に、支払手形・工事未払金等が2,920百万円、未払法人税等が1,351百万円、未成工事受入金が1,633百万円それぞれ増加した一方、短期借入金が7,057百万円、長期借入金が889百万円それぞれ減少したことによるものであります。

一方、「純資産の部」は55,245百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,483百万円（前連結会計年度比+13.3%）増加しました。これは主に、当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことによる利益剰余金の増加によるものであります。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の38.9%から42.6%となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、611百万円減少し10,629百万円（前連結会計年度比△5.4%）となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、13,031百万円の資金増加（前連結会計年度は3,328百万円の資金増加）となりました。これは主に、売上債権の回収による減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、3,811百万円の資金減少（前連結会計年度は3,232百万円の資金減少）となりました。これは主に、設備投資による固定資産の取得等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、9,847百万円の資金減少（前連結会計年度は2,774百万円の資金増加）となりました。これは主に、借入金の返済によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
自己資本比率	30.2%	33.3%	39.9%	38.9%	42.6%
時価ベースの自己資本比率	19.5%	19.3%	37.8%	26.9%	36.0%
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	—	3.9年	1.8年	8.6年	1.5年
インタレスト・カバレッジ・レシオ	—	9.7倍	24.9倍	7.5倍	37.5倍

(算定方法)

自己資本比率＝自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率＝株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率＝有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ＝キャッシュ・フロー／利払い

※いずれも連結ベースの財務数値により計算しています。

※株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により計算しています。

※有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象にしています。

※キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業キャッシュ・フローを使用しています。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しています。

※2015年3月期のキャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオにつきましては、営業キャッシュ・フローがマイナス値であるため、記載していません。

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、2018年3月期に係る自己資本比率、時価ベースの自己資本比率については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しています。

(4) 今後の見通し

当社グループは2017年度を初年度とする3ヵ年の第1次中期経営計画を策定し、基本方針に基づき、企業価値の向上に取り組んでいます。この2年間は、公共建設投資がピークアウトしている状況は変わりませんが、民間建設投資を含めると高い水準を維持している環境の中、それぞれのセグメントにおいて受注及び利益の確保に努めてきた結果、2年目で最終年度の数値目標を達成することができました。

その一方で、建設関連業界においては人手不足が顕在化しており、また現在進みつつある少子高齢化社会の問題と昨今の「働き方改革」への対応も含め、当社グループにおいても早急な対応が求められています。当社グループでは今後限られた人材の有効活用による施工体制の確立に加え、ICT、ロボット、AIを活用し合理化・省人化を実現した工場、工事現場を目指すとともに、建設業の将来的な担い手確保に向けた魅力ある労働環境を整備して、人と技術の両面から高い競争力を有する企業を目指していきます。

中期経営計画の最終年度にあたる2019年度につきましても、継続してグループ全体での「収益力」の改善を意識し、持続的な成長と企業価値の向上を目指していきます。

2020年3月期の業績につきましては、売上高1,200億円、営業利益48億円、経常利益58億円、親会社株主に帰属する当期純利益43億円を見込むとともに、受注高については1,120億円を見込んでいます。

2. 企業集団の状況

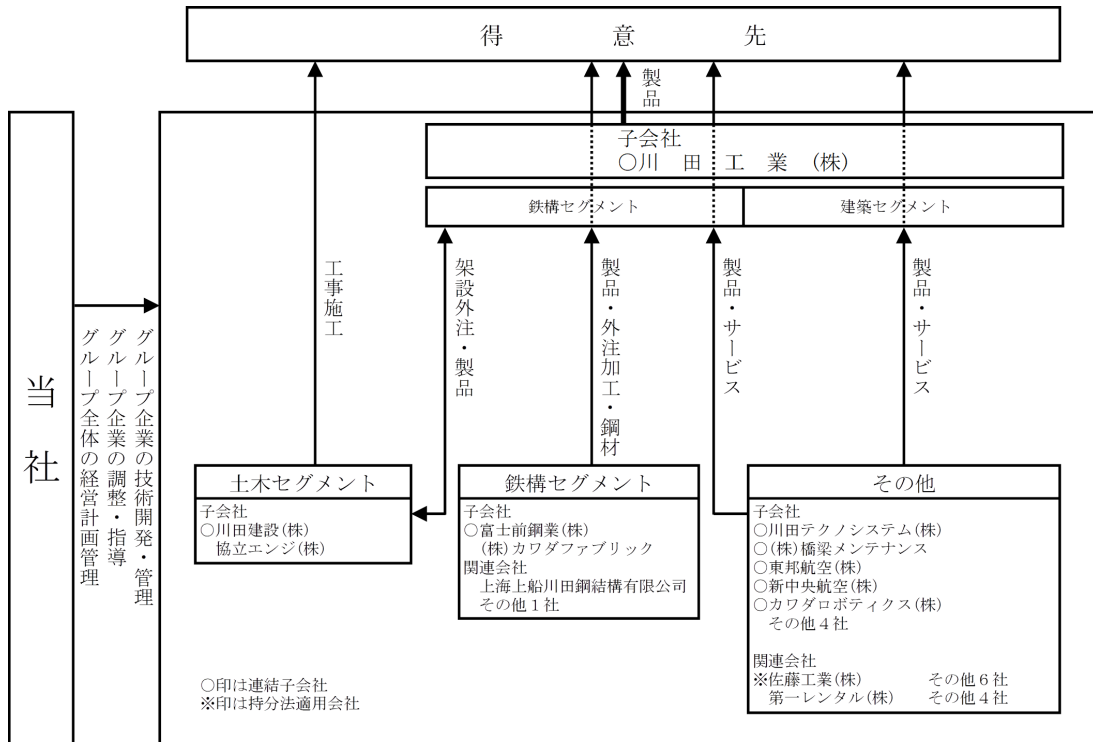
当社グループは、当社、子会社14社、関連会社14社で構成され、鉄構セグメント、土木セグメント、建築セグメント及びその他事業を主な事業の内容とし、更に各事業に関連する研究やサービス等の事業活動を展開しています。

当社は川田工業株式会社の純粋持株会社として2009年2月27日付で設立され、当社グループ全体の経営計画管理、グループ企業の調整・指導・各事業に関する研究開発等の業務を行います。また、当社は特定上場会社等に該当し、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準のうち、上場会社の規模との対比で定められる数値基準については、連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。

なお、当社グループの事業に係る位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであり、セグメントと同一の区分であります。

セグメントの名称	主な事業内容	主要な会社名
鉄構	鋼製橋梁（鋼橋）及び建築鉄骨の設計・製作・架設据付、鋼材製品の販売	川田工業(株)、富士前鋼業(株)
土木	PC橋梁、プレベーム橋梁の設計・製作・架設据付及び橋梁保全工事請負	川田建設(株)
建築	一般建築及び国内におけるシステム建築の設計・工事請負	川田工業(株)
その他	次世代型産業用ロボット等の製造及び販売	カワダロボティクス(株)
	各種機械装置、コンピューターシステム、ソフトウェアの開発・設計・販売及びコンサルティング	カワダロボティクス(株)
	ソフトウェアの開発・販売及びシステム機器の販売、橋梁等の構造解析及び設計・製図	川田テクノシステム(株)
	橋梁付属物の販売	(株)橋梁メンテナンス
	航空機使用事業	東邦航空(株)、新中央航空(株)
	建設工事の請負並びに企画、設計、監理及びコンサルティング	佐藤工業(株)

事業の系統図は次のとおりであります。



3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び国内他社との比較可能性を考慮して当面は日本基準を採用する方針です。今後、他社の開示状況などにより I F R S（国際財務報告基準）適用の検討をすすめていく方針であります。

4. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	※4 11,327	※4 10,714
受取手形・完成工事未収入金等	※4,※7 47,636	※4,※7 46,432
未成工事支出金	※5 1,030	※5 1,408
その他のたな卸資産	※1 803	※1 1,014
その他	3,939	5,510
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	64,730	65,073
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	21,149	21,933
機械、運搬具及び工具器具備品	※8 21,588	※8 22,169
航空機	※8 5,007	※8 5,204
土地	※3 15,747	※3 14,889
リース資産	3,722	3,094
建設仮勘定	322	1,596
減価償却累計額	△40,333	△41,287
有形固定資産合計	※4 27,203	※4 27,601
無形固定資産		
	612	755
投資その他の資産		
投資有価証券	※4 2,044	※4 2,530
関係会社株式	26,736	29,402
長期貸付金	418	418
繰延税金資産	1,500	1,904
その他	※2 1,164	※2 1,037
貸倒引当金	△827	△660
投資その他の資産合計	31,036	34,631
固定資産合計	58,852	62,988
資産合計	123,583	128,062

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	※7 25,192	※7 28,112
短期借入金	※4 9,990	※4 2,932
1年内返済予定の長期借入金	※4 5,985	※4 5,445
1年内償還予定の社債	230	70
リース債務	583	723
未払法人税等	652	2,004
未成工事受入金	6,368	8,002
賞与引当金	1,823	2,133
完成工事補償引当金	106	260
工事損失引当金	※5 1,498	※5 1,211
その他	4,164	5,596
流動負債合計	56,594	56,493
固定負債		
社債	175	105
長期借入金	※4 10,079	※4 9,190
リース債務	1,849	1,256
繰延税金負債	55	52
再評価に係る繰延税金負債	※3 1,590	※3 1,476
役員退職慰労引当金	397	470
退職給付に係る負債	3,505	3,322
資産除去債務	220	205
負ののれん	170	151
その他	183	94
固定負債合計	18,227	16,324
負債合計	74,822	72,817
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,166	5,271
資本剰余金	10,621	10,746
利益剰余金	29,365	35,018
自己株式	△258	△197
株主資本合計	44,895	50,838
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,437	1,710
土地再評価差額金	※3 917	※3 980
為替換算調整勘定	608	499
退職給付に係る調整累計額	263	498
その他の包括利益累計額合計	3,227	3,687
新株予約権	4	2
非支配株主持分	634	716
純資産合計	48,761	55,245
負債純資産合計	123,583	128,062

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	107,250	118,369
売上原価	※6 94,633	※6 103,817
売上総利益	12,616	14,551
販売費及び一般管理費	※1, ※2 8,180	※1, ※2 8,485
営業利益	4,436	6,065
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	38	47
受取賃貸料	148	146
負ののれん償却額	20	20
持分法による投資利益	570	2,793
補助金収入	215	134
業務受託料	133	28
その他	104	189
営業外収益合計	1,231	3,361
営業外費用		
支払利息	460	359
賃貸費用	439	449
その他	181	77
営業外費用合計	1,081	886
経常利益	4,586	8,541
特別利益		
固定資産売却益	-	※3 115
補助金収入	320	-
保険差益	148	-
投資損失引当金繰入額	-	82
特別利益合計	469	197
特別損失		
固定資産売却損	-	※4 13
固定資産除却損	※5 65	※5 44
減損損失	※7 211	※7 788
投資損失引当金繰入額	36	-
退職給付制度改定損	46	-
特別損失合計	360	845
税金等調整前当期純利益	4,695	7,892
法人税、住民税及び事業税	1,458	2,423
法人税等調整額	△1,018	△689
法人税等合計	439	1,734
当期純利益	4,255	6,158
非支配株主に帰属する当期純利益	184	95
親会社株主に帰属する当期純利益	4,070	6,063

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
当期純利益	4,255	6,158
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	261	310
退職給付に係る調整額	235	217
持分法適用会社に対する持分相当額	448	△130
その他の包括利益合計	※ 945	※ 397
包括利益	5,201	6,556
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	5,013	6,461
非支配株主に係る包括利益	187	95

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,135	10,600	25,639	△254	41,121
当期変動額					
新株の発行(新株予約権の行使)	30	30			61
剰余金の配当			△346		△346
親会社株主に帰属する当期純利益			4,070		4,070
土地再評価差額金の取崩			1		1
自己株式の取得				△4	△4
自己株式の処分		0		0	0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△9			△9
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	30	21	3,725	△4	3,773
当期末残高	5,166	10,621	29,365	△258	44,895

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	1,040	919	462	△136	2,285	5	446	43,859
当期変動額								
新株の発行(新株予約権の行使)								61
剰余金の配当								△346
親会社株主に帰属する当期純利益								4,070
土地再評価差額金の取崩								1
自己株式の取得								△4
自己株式の処分								0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動								△9
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	396	△1	146	400	941	△0	188	1,128
当期変動額合計	396	△1	146	400	941	△0	188	4,902
当期末残高	1,437	917	608	263	3,227	4	634	48,761

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,166	10,621	29,365	△258	44,895
当期変動額					
新株の発行(新株予約権の行使)	105	105			210
剰余金の配当			△347		△347
親会社株主に帰属する当期純利益			6,063		6,063
土地再評価差額金の取崩			△62		△62
自己株式の取得				△59	△59
自己株式の処分		33		66	99
連結子会社からの自己株式の取得による剰余金の増減		△14		54	39
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	105	124	5,652	60	5,943
当期末残高	5,271	10,746	35,018	△197	50,838

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	1,437	917	608	263	3,227	4	634	48,761
当期変動額								
新株の発行(新株予約権の行使)								210
剰余金の配当								△347
親会社株主に帰属する当期純利益								6,063
土地再評価差額金の取崩								△62
自己株式の取得								△59
自己株式の処分								99
連結子会社からの自己株式の取得による剰余金の増減								39
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	272	62	△109	234	460	△2	82	540
当期変動額合計	272	62	△109	234	460	△2	82	6,483
当期末残高	1,710	980	499	498	3,687	2	716	55,245

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,695	7,892
減価償却費	2,488	2,586
減損損失	211	788
負ののれん償却額	△19	△19
貸倒引当金の増減額(△は減少)	37	△167
賞与引当金の増減額(△は減少)	96	310
完成工事補償引当金の増減額(△は減少)	△155	154
工事損失引当金の増減額(△は減少)	△52	△286
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	4	73
その他の引当金の増減額(△は減少)	0	△74
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	107	34
受取利息及び受取配当金	△39	△48
支払利息	460	359
持分法による投資損益(△は益)	△570	△2,793
有形固定資産売却損益(△は益)	0	△102
固定資産除却損	89	55
受取保険金	△181	△28
補助金収入	△572	△305
売上債権の増減額(△は増加)	△8,391	1,203
未成工事支出金の増減額(△は増加)	△491	△371
たな卸資産の増減額(△は増加)	120	△210
仕入債務の増減額(△は減少)	3,560	2,920
未成工事受入金の増減額(△は減少)	2,838	1,633
未払消費税等の増減額(△は減少)	△1,061	797
その他	△133	△653
小計	3,044	13,748
損害賠償金の支払額	-	△3
保険金の受取額	425	28
補助金の受取額	1,127	241
法人税等の支払額	△1,269	△983
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,328	13,031

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△12	△12
定期預金の払戻による収入	11	13
有形固定資産の取得による支出	△3,161	△3,632
有形固定資産の売却による収入	0	232
無形固定資産の取得による支出	△266	△418
投資有価証券の取得による支出	△10	△9
貸付けによる支出	△3	△3
貸付金の回収による収入	3	3
利息及び配当金の受取額	183	288
その他	22	△274
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,232	△3,811
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	5,921	△7,057
長期借入れによる収入	6,490	4,850
長期借入金の返済による支出	△7,879	△6,278
社債の発行による収入	97	-
社債の償還による支出	△380	△230
利息の支払額	△444	△347
リース債務の返済による支出	△611	△548
新株予約権の行使による株式の発行による収入	60	207
その他	△479	△442
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,774	△9,847
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	16
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,869	△611
現金及び現金同等物の期首残高	8,371	11,240
現金及び現金同等物の期末残高	※ 11,240	※ 10,629

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社数 8社

主要な連結子会社名は、「2. 企業集団の状況」に記載しているため、省略しています。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

(主要な非連結子会社名)

(株)カワダファブリック

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 7社

(主要な会社等の名称)

佐藤工業(株)

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社

(主要な会社等の名称)

協立エンジ(株)

第一レンタル(株)

(持分法を適用しない理由)

持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しています。

(3) 持分法適用会社は、決算日が連結決算日と異なるため、当該会社の直近の決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しています。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日前1か月の市場価格の平均に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

① 未成工事支出金

個別法による原価法

② 製品・半製品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

③ 材料貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法）を採用しています。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。

ただし、航空機については、経済的使用年数によっています。

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しています。

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいています。

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しています。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

(3) 重要な繰延資産の処理方法

① 株式交付費

支出時に全額費用として処理しています。

② 社債発行費

支出時に全額費用として処理しています。

(4) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

② 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しています。

③ 完成工事補償引当金

完成工事に係るかし担保の費用に備えるため、当連結会計年度の完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しています。

④ 工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しています。

⑤ 役員退職慰労引当金

役員及び執行役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しています。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっています。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しています。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しています。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を認識の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しています。

③ 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

(6) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

- I 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
- II その他の工事
工事完成基準

なお、工事進行基準による完成工事高は、105,615百万円であります。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしていますので、特例処理を採用しています。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

金利スワップ

ヘッジ対象

借入金の利息

③ ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行い、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っています。

④ ヘッジの有効性評価の方法

リスク管理方針に従って、以下の条件を満たす金利スワップを締結しています。

- I 金利スワップの想定元本と長期借入金の元本金額が一致している。
- II 金利スワップと長期借入金の契約期間及び満期が一致している。
- III 長期借入金の変動金利のインデックスと金利スワップで受払いされる変動金利のインデックスが一致している。
- IV 長期借入金と金利スワップの金利改定条件が一致している。
- V 金利スワップの受払条件がスワップ期間を通して一定である。

従って、金利スワップの特例処理の要件を満たしているので決算日における有効性の評価を省略しています。

(8) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、金額に重要性がある場合は、20年間の均等償却とし、重要性が乏しい場合は、発生時の損益として処理しています。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっています。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

① 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税に相当する額の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しています。

② 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しています。

(会計方針の変更)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号平成30年1月12日。以下、「実務対応報告第36号」という。)等を2018年4月1日以後適用し、従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引については、「ストック・オプション等に関する会計基準」(企業会計基準第8号平成17年12月27日)等に準拠した会計処理を行うこととしました。

ただし、実務対応報告第36号の適用については、実務対応報告第36号第10項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、実務対応報告第36号の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、従来採用していた会計処理を継続しています。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「投資その他の資産」の「その他」に含めていた「繰延税金資産」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示していた1,187百万円は、「繰延税金資産」22百万円、「その他」1,164百万円として組み替えています。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用し、「繰延税金資産」は「投資その他の資産」の区分に表示し、「繰延税金負債」は「固定負債」の区分に表示する方法に変更しています。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」が1,666百万円減少し、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」が1,477百万円増加しています。また、「流動負債」の「その他」が13百万円減少し、「固定負債」の「繰延税金負債」が174百万円減少しています。

(連結貸借対照表関係)

※1 その他のたな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
製品	22百万円	51百万円
材料貯蔵品	720 "	754 "
仕掛品	60 "	207 "

※2 このうち非連結子会社及び関連会社に対する金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
投資その他の資産「その他」のうち 出資金	217百万円	217百万円

※3 連結子会社の川田工業(株)及び川田建設(株)は「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しています。

(川田工業(株))

・再評価の方法

主に土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第5号に定める不動産鑑定評価額により算出

・再評価を行った年月日 2000年3月31日

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	4,104百万円	4,058百万円

(川田建設(株))

・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額及び第2条第4号に定める地価税法の時価(路線価)に合理的な調整をして算出

・再評価を行った年月日 2002年3月31日

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	144百万円	87百万円

※4 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は、次のとおりであります。

担保に供している資産

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
現金預金	34百万円	34百万円
建物・構築物	2,342 "	2,345 "
	(1,167 ")	(1,264 ")
機械、運搬具及び工具器具備品	0 "	0 "
	(0 ")	(0 ")
航空機	388 "	397 "
土地	12,915 "	12,733 "
	(11,118 ")	(10,937 ")
投資有価証券	264 "	103 "
計	15,945 "	15,614 "

担保付債務

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
短期借入金	4,405百万円	1,175百万円
1年内返済予定の長期借入金	3,831 "	3,957 "
長期借入金	8,003 "	7,324 "
工場財団抵当による借入金	13,680 "	10,127 "

(注) 1 () 内は、工場財団抵当に供している資産で内書きであります。

2 上記の他、工事請負代金の債権譲渡契約証書を差し入れており、これに対応する工事請負代金総額(既入金額を除く)は、前連結会計年度において676百万円、当連結会計年度において440百万円であります。

※5 損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しています。

工事損失引当金に対応する未成工事支出金の額

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
未成工事支出金	25百万円	167百万円

6 連結子会社3社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行15行と当座貸越契約を締結しています。連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
当座貸越極度額	17,750百万円	17,950百万円
借入実行残高	9,350 "	1,800 "
差引額	8,400 "	16,150 "

※7 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しています。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれています。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
受取手形	100百万円	53百万円
支払手形	5 "	5 "

※8 圧縮記帳

取得価額から直接控除した国庫補助金等による圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
機械、運搬具及び工具器具備品	5百万円	5百万円
航空機	5,409 "	5,409 "

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
従業員給料手当	2,889百万円	3,202百万円
賞与引当金繰入額	439 "	517 "
退職給付費用	155 "	151 "
役員退職慰労引当金繰入額	105 "	97 "

※2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	1,384百万円	1,050百万円

※3 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物・構築物	－百万円	16百万円
土地	－ "	97 "
投資その他の資産「その他」	－ "	0 "
計	－百万円	115百万円

※4 固定資産売却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
投資その他の資産「その他」	－百万円	13百万円

※5 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物・構築物	－百万円	43百万円
機械、運搬具及び工具器具備品	－ "	0 "
航空機	65 "	－ "
計	65 "	44 "

※6 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	△52百万円	△286百万円

※7 減損損失

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額(百万円)
大分県杵築市	事業用資産	土地、機械装置、建物・構築物、工具器具備品	206
東京都中央区	事業用資産	工具器具備品	0
栃木県大田原市他	遊休資産	土地	4
合計			211

当社グループは、事業用資産について管理会計上の区分を基礎として、賃貸用資産及び遊休資産について個別物件ごとにグルーピングを行っています。

このうち、事業用資産については、収益性が低下し、投下資本の回収が見込めなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しています。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、事業用資産の土地については不動産鑑定評価額、遊休資産については固定資産税評価額、その他については備忘価額で評価しています。

その内訳は、大分県杵築市206百万円(内、土地155百万円、機械装置45百万円、建物・構築物4百万円及び工具器具備品0百万円)であります。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額(百万円)
茨城県竜ヶ崎市	事業用資産	土地	750
栃木県芳賀郡他	遊休資産	土地	37
合計			788

当社グループは、事業用資産について管理会計上の区分を基礎として、賃貸用資産及び遊休資産について個別物件ごとにグルーピングを行っています。

このうち、事業用資産については、収益性の低下等にもない、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しています。

なお、回収可能額は、正味売却価額により測定しており、正味売却価額については不動産鑑定評価額等で評価しています。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	385百万円	479百万円
組替調整額	— "	— "
税効果調整前	385 "	479 "
税効果額	△124 "	△168 "
その他有価証券評価差額金	261 "	310 "
退職給付に係る調整額		
当期発生額	71 "	285 "
組替調整額	164 "	△67 "
税効果調整前	235 "	217 "
税効果額	— "	— "
退職給付に係る調整額	235 "	217 "
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	420 "	△152 "
組替調整額	28 "	22 "
持分法適用会社に対する持分相当額	448 "	△130 "
その他の包括利益合計	945 "	397 "

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	5,845,070	14,500	—	5,859,570

(注) 普通株式の発行済株式総数の増加は、新株予約権の権利行使による新株の発行であります。

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	64,014	673	23	64,664

(注) 1 増加は、当社による単元未満株式の買取りによるものであります。

2 減少は、単元未満株式の買増請求による売渡しによるものであります。

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる 株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	増加	減少	当連結会計 年度末	
提出会社	2015年ストック・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	4
合計			—	—	—	—	4

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年6月29日 定時株主総会	普通株式	350	60	2017年3月31日	2017年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	351	利益剰余金	60	2018年3月31日	2018年6月29日

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	5,859,570	49,600	—	5,909,170

(注) 普通株式の発行済株式総数の増加は、新株予約権の権利行使による新株の発行であります。

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	64,664	1,077	13,800	51,941

(注) 1 増加は、当社による単元未満株式の買取り等によるものであります。

2 減少は、譲渡制限付株式報酬制度に係る株式の割り当てによるものであります。

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる 株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	増加	減少	当連結会計 年度末	
提出会社	2015年ストック・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	2
合計			—	—	—	—	2

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	351	60	2018年3月31日	2018年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	590	利益剰余金	100	2019年3月31日	2019年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金預金勘定	11,327百万円	10,714百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△86 "	△85 "
現金及び現金同等物	11,240 "	10,629 "

(セグメント情報)

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、本社に製品・サービス別の事業本部を置き、各事業本部は、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社グループは、事業本部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「鉄構セグメント」、「土木セグメント」及び「建築セグメント」の3つを報告セグメントとしています。

「鉄構セグメント」は、鋼橋及び建築鉄骨の設計・製作・架設据付の事業を行っており、「土木セグメント」は、PC橋梁、プレキャスト橋梁の設計・製作・架設据付及び橋梁保全工事の請負を行っています。「建築セグメント」は、一般建築及びシステム建築の設計・工事請負を行っています。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益又は損失は、営業損益ベースの数値であります。セグメント間の内部利益及び振替高は市場実勢価格に基づいています。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	鉄構	土木	建築	計		
売上高						
外部顧客への売上高	52,274	30,870	12,116	95,262	11,988	107,250
セグメント間の内部売上高又は振替高	514	396	701	1,612	575	2,187
計	52,788	31,266	12,818	96,874	12,563	109,438
セグメント利益又は損失(△)	3,771	1,871	825	6,468	△26	6,442
セグメント資産	49,303	19,558	4,371	73,233	15,724	88,958
その他の項目						
減価償却費	692	337	10	1,040	1,343	2,384
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,655	643	0	2,299	1,384	3,684

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発・販売、航空、その他機械の販売、不動産売買・賃貸に関する事業等を含んでいます。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	鉄構	土木	建築	計		
売上高						
外部顧客への売上高	52,410	32,706	21,481	106,598	11,770	118,369
セグメント間の内部売上高又は振替高	633	679	7	1,320	631	1,951
計	53,044	33,385	21,489	107,919	12,401	120,320
セグメント利益	4,567	1,789	1,555	7,912	414	8,326
セグメント資産	46,807	19,947	7,893	74,648	15,894	90,543
その他の項目						
減価償却費	822	356	8	1,187	1,305	2,493
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,180	382	6	1,569	924	2,493

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発・販売、航空、その他機械の販売、不動産売買・賃貸に関する事業等を含んでいます。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	96,874	107,919
「その他」の区分の売上高	12,563	12,401
セグメント間取引消去	△2,187	△1,951
連結財務諸表の売上高	107,250	118,369

(単位:百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	6,468	7,912
「その他」の区分の利益又は損失(△)	△26	414
セグメント間取引消去	△412	180
全社費用(注)	△2,259	△2,546
その他の調整額	665	105
連結財務諸表の営業利益	4,436	6,065

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

(単位：百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	73,233	74,648
「その他」の区分の資産	15,724	15,894
全社資産(注)	34,813	37,519
連結財務諸表の資産合計	123,771	128,062

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない余資運用資金(現金預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	1,040	1,187	1,343	1,305	103	92	2,488	2,586
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,299	1,569	1,384	924	71	269	3,755	2,763

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、貸貸用資産及び事務管理用サーバーであります。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	8,304.26円	9,309.19円
1株当たり当期純利益	702.71円	1,041.23円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	698.59円	1,037.92円

(注) 1 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	4,070	6,063
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	4,070	6,063
普通株式の期中平均株式数 (株)	5,792,832	5,822,972
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額 (百万円)	—	—
普通株式増加額 (株)	34,125	18,569
(うち新株予約権) (株)	(34,125)	(18,569)

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (2018年3月31日)	当連結会計年度末 (2019年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	48,761	55,245
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	638	719
(うち新株予約権) (百万円)	(4)	(2)
(うち非支配株主持分) (百万円)	(634)	(716)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	48,122	54,526
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数 (株)	5,794,906	5,857,229

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

5. その他

(1) 役員の異動

①代表者の異動

該当事項はありません。

②その他の役員の異動 (2019年6月27日付予定)

新任取締役候補

取締役 山崎 一樹 (現 グループ経営戦略室長)

(2) 受注、販売及び繰越高の状況

①受注実績

(単位：百万円、%)

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		増 減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
鉄構	62,606	51.2	54,719	38.6	△7,886	△12.6
土木	29,058	23.8	51,234	36.2	22,176	76.3
建築	18,235	14.9	22,811	16.1	4,576	25.1
その他	12,277	10.1	12,819	9.1	542	4.4
合計	122,177	100.0	141,585	100.0	19,408	15.9

②販売実績

(単位：百万円、%)

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		増 減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
鉄構	52,788	48.2	53,044	44.1	255	0.5
土木	31,266	28.6	33,385	27.7	2,118	6.8
建築	12,818	11.7	21,489	17.9	8,670	67.6
その他	12,563	11.5	12,401	10.3	△162	△1.3
合計	109,438	100.0	120,320	100.0	10,882	9.9

③次期繰越高

(単位：百万円、%)

セグメントの名称	前連結会計年度末 (2018年3月31日)		当連結会計年度末 (2019年3月31日)		増 減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
鉄構	86,469	63.0	88,144	55.6	1,675	1.9
土木	32,481	23.6	50,330	31.7	17,849	55.0
建築	17,264	12.6	18,586	11.7	1,322	7.7
その他	1,093	0.8	1,510	1.0	417	38.2
合計	137,307	100.0	158,572	100.0	21,264	15.5

(注) セグメント間の取引については、相殺消去していません。